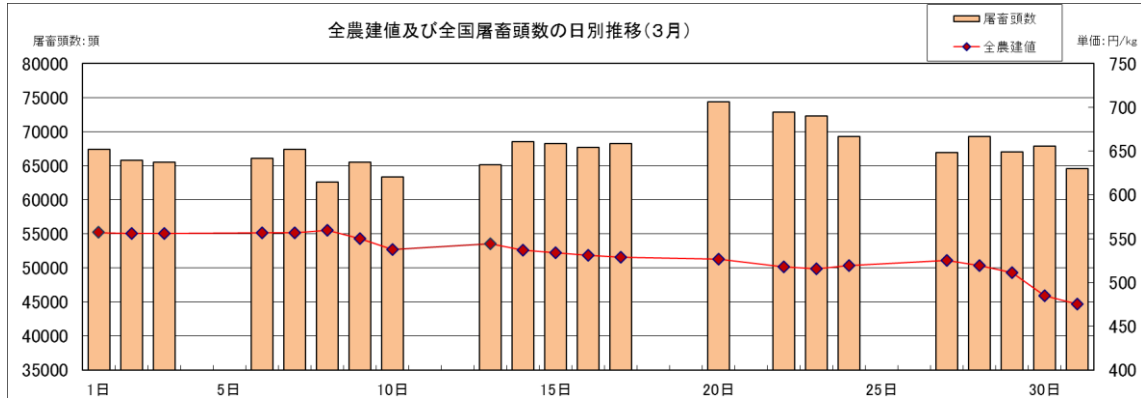


# 肉豚インフォメーション（3月）

## 【全農建値】

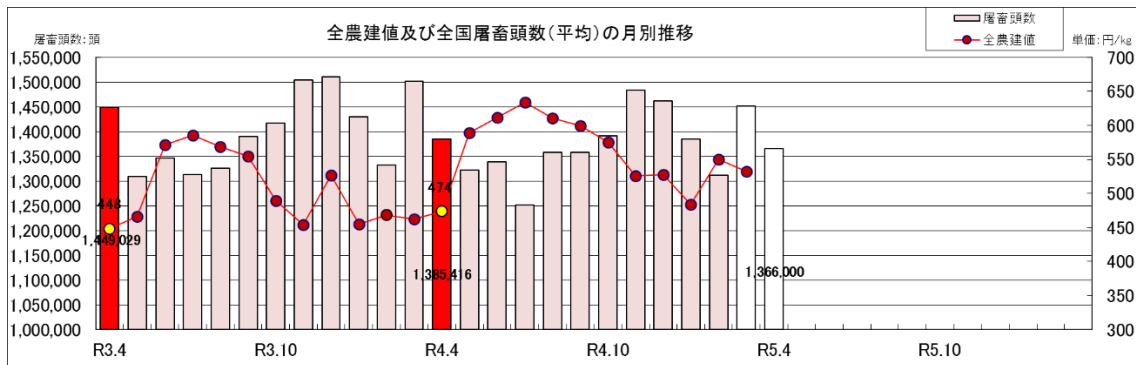
2023年3月（税抜）	2022年3月（税抜）
532円/kg（70円高）	462円/kg

3月は、上旬から気温が上昇し平年より高い気温で推移する中、鍋物需要が一服したが、需要が焼き材へとシフトしたことで相場は底堅く推移する展開となった。



## 4月以降の動向

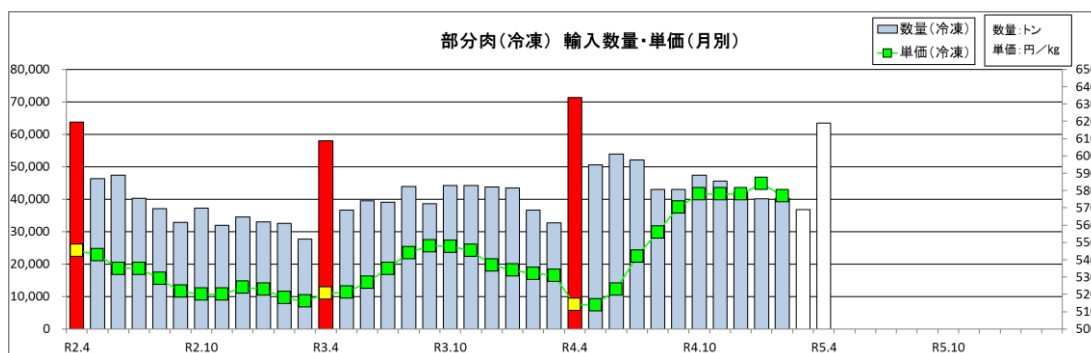
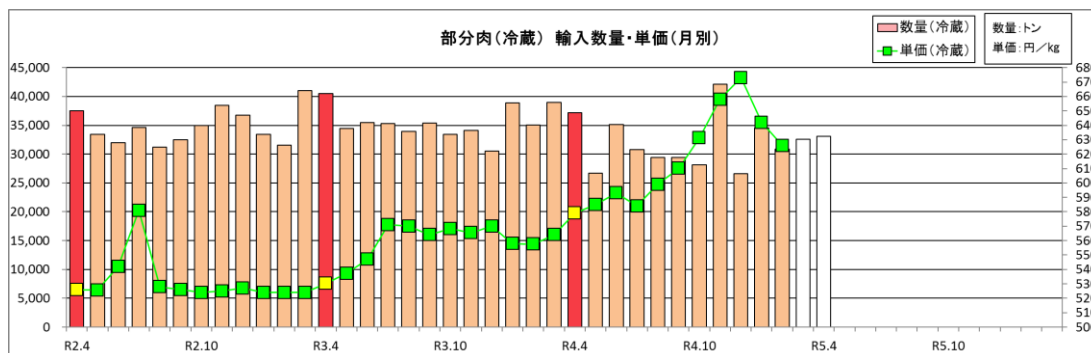
4月の出荷頭数は、前年同月をわずかに下回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、為替の影響や主な輸入元である北米の現地相場の高止まり等から、3月は大幅に、4月はかなり大きく、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、3月は主要な輸入地域である欧州からの安定的な供給により全体では増加が見込まれること等から前年同月をかなり大きく上回ると予想する。一方、4月は欧州の現地相場の上昇や為替の影響に加え、前年同月の輸入量が例年より多かったこと等から前年同月をかなり大きく下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をわずかに上回ると予測する。

(ALIC 豚肉の需給予測について 3月29日)



令和5年4～6月期の配合飼料供給価格について、とうもろこしのシカゴ定期や海上運賃の下落、為替の円高などにより、全国全畜種総平均トン当たり2,000円値下げとなった。

また、岸田首相は令和4年度第3四半期に引き続き、第4四半期についても、生産コスト削減や飼料自給率向上に取り組む生産者に対し、補填金の交付することを決定し、交付金額はトン当たり8,500円となる。

その他、配合飼料価格安定制度について、一定期間に渡り連続で補填が続いた後の配合飼料価格の高止まり等の場合に、飼料コストの急増を段階的に抑制する「新たな特例」を制度内に設け、基準輸入原料価格の算定期間を直前1年間の平均から2.5年間の平均に延長する。

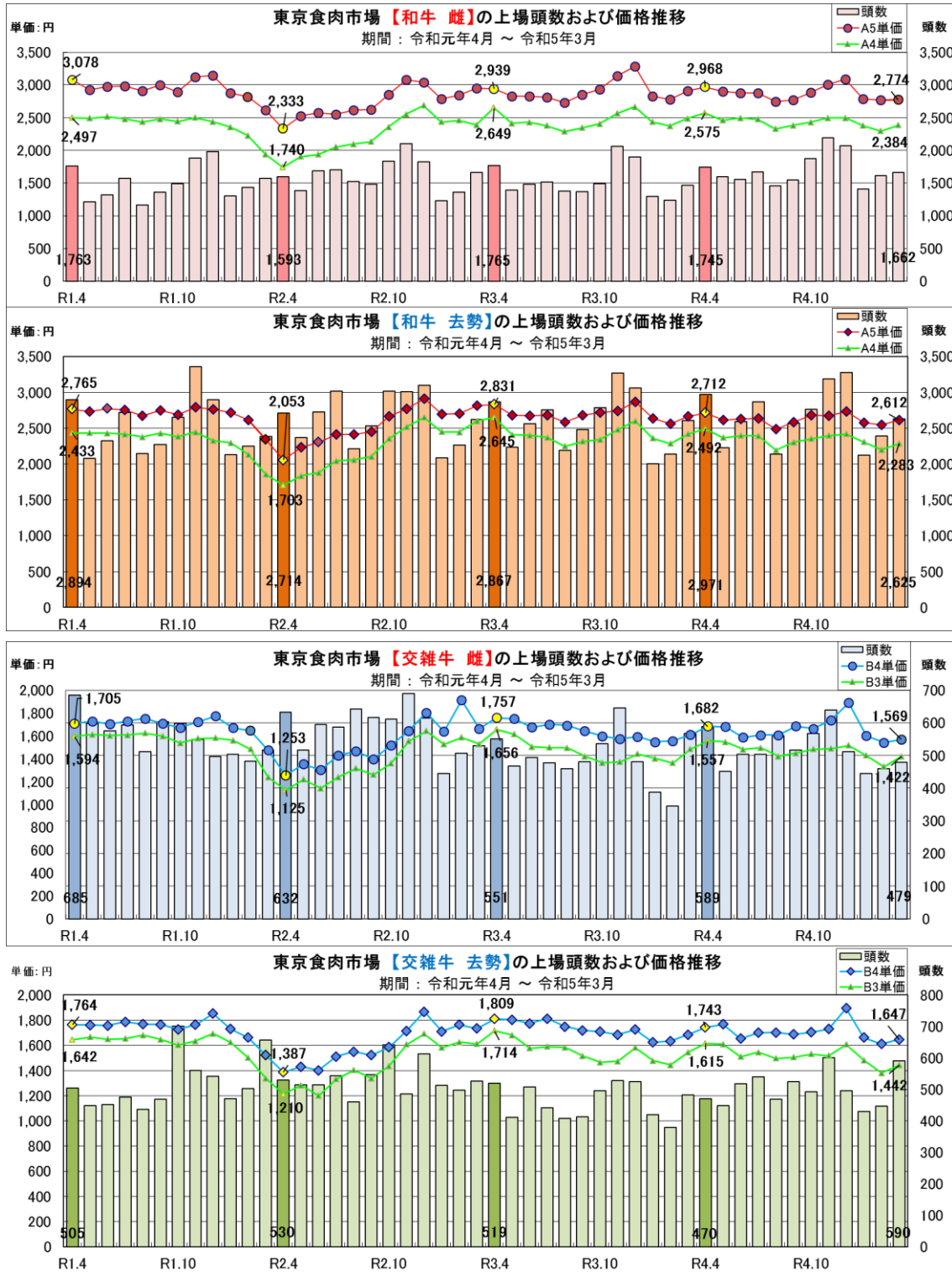
4月の相場は、軟調な展開が予想される。

全農建値(税抜)予測レンジは470円～530円とする。

# 肉牛インフォメーション（3月）

## ● 3月の動向

月初から引き合いを維持し全体的には強もちあいで推移したが、末端の消費は弱いことに加え決算期であったことから、卸関係は在庫調整をしながら必要分を手当てする状況となった。



● 4月の動向予測

4月は年度替わりでもあり、上旬は補充買いや行楽需要、大型連休に向けた手当てなど、荷動きが期待できる。

4月相場は「強もちあい」の展開と予想。

和牛去勢 A5等級 2,600円（税込み）      A4等級 2,300円（税込み）

交雑去勢 B4等級 1,600円（税込み）      B3等級 1,400円（税込み）

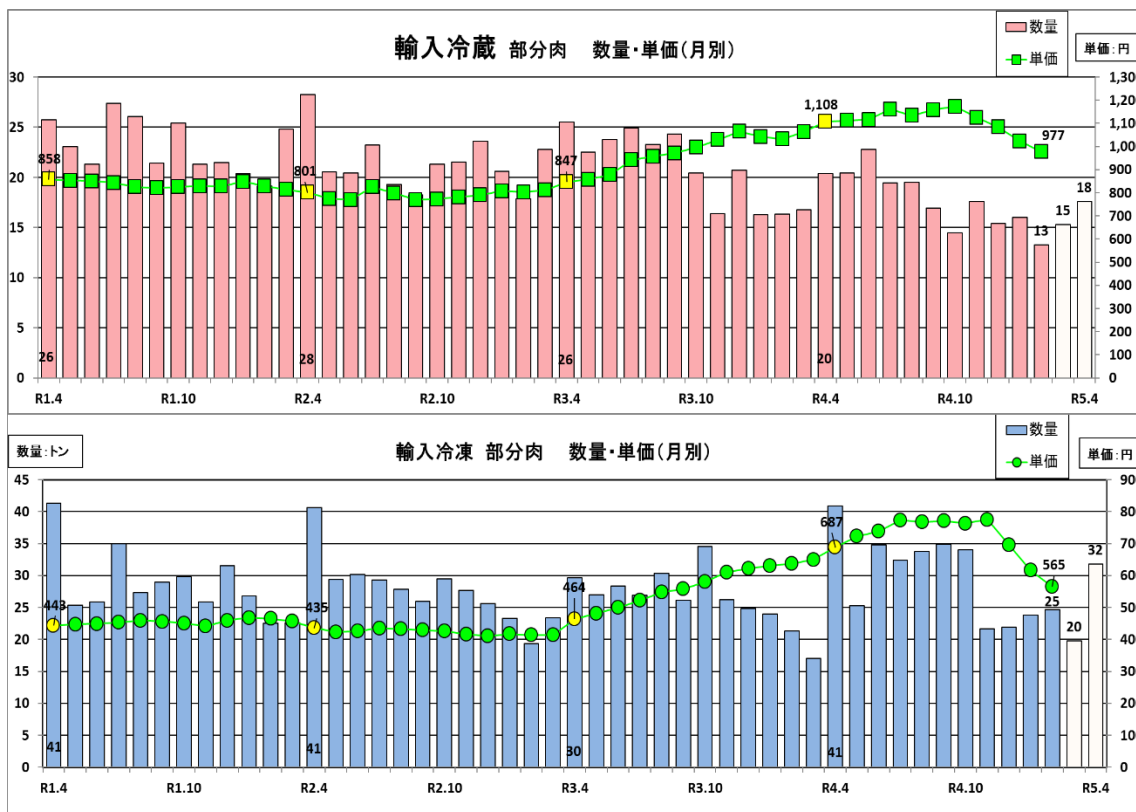
● 輸入牛肉

冷蔵品輸入量は、価格上昇による国内需要の低下等から、3月はかなりの程度、4月はかなり大きく、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、3月は、国内需要は高くないものの、前年同月の米国産及び豪州産の輸入量が現地相場の高騰等により例年よりも少なかったこと等から、前年同月を大幅に上回ると予測する。4月は、引き続き国内需要の低迷が見込まれる中、主要国である豪州産、米国産等が少なく、前年同月を大幅に下回ると予測する。

なお、3カ月平均では、前年同期をやや下回ると予測する。

（ALIC牛肉の需給予測について3月29日）



● 消費動向

GWを控えるなど消費の拡大が期待される。焼き材の需要は徐々にあがり、ロイン系、バラ系が活発に動く見込み。一方で、スネやウデの動きは鈍くなるか。

# 食肉インフォメーション (3月)

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査2月度結果報告によると、2月の外食全体の売上は前年同月比で123.5%、19年比でも103.8%と回復傾向となった。コロナ感染収束やマスク緩和等による人流増加が大きな要因だが、原材料費・光熱費・物流費等の高騰による値上げも要因であり、実質の利益を鑑みると厳しい状況が続いている。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の2月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,101億円(前年同月比100.9%、既存店ベース99.3%)で、国産・輸入ともに相場高が続いて節約志向となり不振となった。鍋物用の需要も月後半から気温上昇により落ち込んだ。価格訴求が出来ず、売り上げは確保できても利益が出せない状況が続いた。

3月は、昨年と違い規制がない中では、花見や卒業式等による会食需要が復活する予想で、消費拡大が見込まれる。またインバウンド需要も増加の傾向が見えており、コロナ前の活気が戻る事が期待される。

## ○牛肉

2月は、物価高による節約意識の高まりから比較的安価な豚・鶏に需要が移ったことで、全体的に厳しい動きとなった。切落とし用のウデは動きを見せたが、観光・宴会需要が戻らない中でヒレ・ロース等の高級部位は厳しい荷動きとなった。スライス用の肩ロースも鍋物需要の低下とともに鈍くなった。

## ○豚肉

2月は、国産では量販店の決算セールと節約意識の高まりから、切落とし用のスソ物が好調だった一方、鍋物需要の落ち着きからバラ・肩ロース等は鈍くなった。加えて寒波の影響で出荷頭数が落ち込んだことで一時的に締まった需給となった。輸入物では、チルドは入船遅れや国産相場の高値の影響でやや鈍いが、冷凍は欧州等の主要産地からの供給が安定したことで回復傾向になった。

## ○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績（令和5年2月期） 単位：千円、%

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉 専門店	量販店	飲食店	合計
令和2年度2月	12,219	12,199	7,800	27,986	11,559	10,353	6,473	88,589
令和3年度2月	12,311	12,370	12,537	21,014	15,741	10,073	4,465	88,511
令和4年度2月	10,961	10,888	7,517	21,980	18,092	8,803	6,557	84,798
増減 (R4-R3)	-1,350	-1,482	-5,020	966	2,351	-1,270	2,092	-3,713
対比 (R2/R4)	90%	89%	96%	79%	157%	85%	101%	96%
対比 (R3/R4)	89%	88%	60%	105%	115%	87%	147%	96%